

## 委員会先進地視察報告書総括表

1 視察日	令和元年 11月 14日	
2 視察地・項目	熊本 県 宇土 市	
3 参加者	1. 山北 正久 委員長	7. 朝長 英美 委員
	2. 三浦 正司 副委員長	8. 小林 史政 委員
	3. 松尾 祥秀 委員	9. 武藤 雅紀 新庁舎整備 室課長補佐
	4. 城 幸太郎 委員	
	5. 竹森 学 委員	10. 中村 宏昭 事務局書記
	6. 吉田 博 委員	11. 向 美樹 事務局書記
4 視察経費	163,620 円 ※(11)人分	

# 市庁舎整備調査特別委員会視察報告書

報告者 小林 史政

1 視察日	令和 元年 11月 14日																									
2 視察地	熊本県 宇土市 宇土仮設市役所																									
3 参加者	1.山北 正久 委員長	5.竹森 学 委員	9.武藤 雅紀 新庁舎整備室課長補佐																							
	2.三浦 正司 副委員長	6.吉田 博 委員	10.中村 宏昭 議会事務局係長																							
	3.松尾 祥秀 委員	7.朝長 英美 委員	11.向 美樹 議会事務局職員																							
	4.城 幸太郎 委員	8.小林 史政 委員																								
4 視察項目	新市庁舎の建設計画について																									
5 視察先選 定理由・目的	大村市新庁舎整備計画にあたり、防災拠点の観点から平成 28 年 4 月に発災した熊本地震により庁舎倒壊が起きた熊本県宇土市を訪れ、新庁舎の建設計画と被災時における庁舎の状況やその後の庁舎建設について確認をすべく、視察を行う運びとなった。																									
6 視察内容	<p>～ 視察の Point ～</p> <p>① 庁舎建て替えの検討経緯と H28 年 4 月に発災した熊本地震により庁舎一部が倒壊した宇土市役所のその後の対応について</p> <p>② 防災拠点としての在り方について</p> <p>③ 新庁舎建設基本計画の概要・スケジュール等について</p> <p style="text-align: center;">～視察内容～</p> <p>1、新庁舎建設の検討経緯</p>																									
	<p>これまでの検討経緯</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成15年 12月</td> <td>●庁舎調査検討の実施 「震度7強程度の地震では大きな被害を受ける可能性が高い。更には、複雑な構造が故、耐震補強が困難であり改築を勧める。」という診断が出された。</td> </tr> <tr> <td>平成23年 4～12月</td> <td>●市役所内部のプロジェクトチームによる検討 現状の問題点や新庁舎の機能、規模、建設手法等の検討を行った。</td> </tr> <tr> <td>平成27年 8月～</td> <td>●宇土市新庁舎建設検討委員会の設置 新庁舎建設の検討を進めていくため、副市長、教育長及び部長級職員等で構成される庁内の検討委員会を設置し、検討を進めている。</td> </tr> <tr> <td>平成27年 9月～ 平成28年 1月</td> <td>●宇土市庁舎建設検討委員会の設置 宇識経験者及び市内団体の代表者等7名からなる検討委員会を設置し、宇土市庁舎建設基本構想（案）について審議が行われた。（全3回）</td> </tr> <tr> <td>平成28年 2月</td> <td>●宇土市庁舎建設検討委員会から審中 庁舎の在り方については補強ではなく建て替えを行い、また十分に市民意見を聞きながら進めていくよう審中がなされた。</td> </tr> <tr> <td>平成28年 4月</td> <td>●宇土市新庁舎建設に関するアンケート調査の実施 アンケートを送付した日の夜に熊本地震が発生。宇土市内に在住する満20歳以上の男女2,000人を無作為に抽出し送付したアンケートの回答者（104人）のうち、7割の方が「防災拠点」としての機能を望んでいるとの結果が出た。</td> </tr> <tr> <td>平成28年 11月～ 12月</td> <td>●宇土市庁舎建設市民ワークショップの開催 公募市民、各種団体又は法人の関係者等及び本市職員の計15名でワークショップを開催し（全4回）、新庁舎に備えるべき機能として必要なものについて様々な意見が出された。</td> </tr> <tr> <td>平成29年 3月</td> <td>●宇土市庁舎建設基本構想の策定 外部の委員で構成される宇土市庁舎建設検討委員会からの発言や市民アンケート、市民ワークショップでの意見等を参考にして、基本構想を策定した。</td> </tr> <tr> <td>平成29年 4月～ 7月</td> <td>●宇土市庁舎建設基本計画及び基本・実施設計者選定支援業務に関する公募型プロポーザルの実施 基本計画策定及び設計者選定支援業務を委託するにあたり、基本構想を踏まえ、本市の特性等を十分に理解し、最も適切な事業者を選定することを目的として公募型プロポーザルを実施した。</td> </tr> <tr> <td>平成29年 8月～ 11月</td> <td>●宇土市新庁舎建設基本計画策定部会の設置 市役所の各部の代表者で構成される基本計画策定部会を設置。基本計画について議論を行った。（全4回）</td> </tr> <tr> <td>平成29年 12月～</td> <td>●市議会新庁舎建設に関する特別委員会の設置 5.新庁舎建設の審査・検討を目的とした市議会特別委員会が設置された。</td> </tr> </tbody> </table>			時期	内容	平成15年 12月	●庁舎調査検討の実施 「震度7強程度の地震では大きな被害を受ける可能性が高い。更には、複雑な構造が故、耐震補強が困難であり改築を勧める。」という診断が出された。	平成23年 4～12月	●市役所内部のプロジェクトチームによる検討 現状の問題点や新庁舎の機能、規模、建設手法等の検討を行った。	平成27年 8月～	●宇土市新庁舎建設検討委員会の設置 新庁舎建設の検討を進めていくため、副市長、教育長及び部長級職員等で構成される庁内の検討委員会を設置し、検討を進めている。	平成27年 9月～ 平成28年 1月	●宇土市庁舎建設検討委員会の設置 宇識経験者及び市内団体の代表者等7名からなる検討委員会を設置し、宇土市庁舎建設基本構想（案）について審議が行われた。（全3回）	平成28年 2月	●宇土市庁舎建設検討委員会から審中 庁舎の在り方については補強ではなく建て替えを行い、また十分に市民意見を聞きながら進めていくよう審中がなされた。	平成28年 4月	●宇土市新庁舎建設に関するアンケート調査の実施 アンケートを送付した日の夜に熊本地震が発生。宇土市内に在住する満20歳以上の男女2,000人を無作為に抽出し送付したアンケートの回答者（104人）のうち、7割の方が「防災拠点」としての機能を望んでいるとの結果が出た。	平成28年 11月～ 12月	●宇土市庁舎建設市民ワークショップの開催 公募市民、各種団体又は法人の関係者等及び本市職員の計15名でワークショップを開催し（全4回）、新庁舎に備えるべき機能として必要なものについて様々な意見が出された。	平成29年 3月	●宇土市庁舎建設基本構想の策定 外部の委員で構成される宇土市庁舎建設検討委員会からの発言や市民アンケート、市民ワークショップでの意見等を参考にして、基本構想を策定した。	平成29年 4月～ 7月	●宇土市庁舎建設基本計画及び基本・実施設計者選定支援業務に関する公募型プロポーザルの実施 基本計画策定及び設計者選定支援業務を委託するにあたり、基本構想を踏まえ、本市の特性等を十分に理解し、最も適切な事業者を選定することを目的として公募型プロポーザルを実施した。	平成29年 8月～ 11月	●宇土市新庁舎建設基本計画策定部会の設置 市役所の各部の代表者で構成される基本計画策定部会を設置。基本計画について議論を行った。（全4回）	平成29年 12月～
時期	内容																									
平成15年 12月	●庁舎調査検討の実施 「震度7強程度の地震では大きな被害を受ける可能性が高い。更には、複雑な構造が故、耐震補強が困難であり改築を勧める。」という診断が出された。																									
平成23年 4～12月	●市役所内部のプロジェクトチームによる検討 現状の問題点や新庁舎の機能、規模、建設手法等の検討を行った。																									
平成27年 8月～	●宇土市新庁舎建設検討委員会の設置 新庁舎建設の検討を進めていくため、副市長、教育長及び部長級職員等で構成される庁内の検討委員会を設置し、検討を進めている。																									
平成27年 9月～ 平成28年 1月	●宇土市庁舎建設検討委員会の設置 宇識経験者及び市内団体の代表者等7名からなる検討委員会を設置し、宇土市庁舎建設基本構想（案）について審議が行われた。（全3回）																									
平成28年 2月	●宇土市庁舎建設検討委員会から審中 庁舎の在り方については補強ではなく建て替えを行い、また十分に市民意見を聞きながら進めていくよう審中がなされた。																									
平成28年 4月	●宇土市新庁舎建設に関するアンケート調査の実施 アンケートを送付した日の夜に熊本地震が発生。宇土市内に在住する満20歳以上の男女2,000人を無作為に抽出し送付したアンケートの回答者（104人）のうち、7割の方が「防災拠点」としての機能を望んでいるとの結果が出た。																									
平成28年 11月～ 12月	●宇土市庁舎建設市民ワークショップの開催 公募市民、各種団体又は法人の関係者等及び本市職員の計15名でワークショップを開催し（全4回）、新庁舎に備えるべき機能として必要なものについて様々な意見が出された。																									
平成29年 3月	●宇土市庁舎建設基本構想の策定 外部の委員で構成される宇土市庁舎建設検討委員会からの発言や市民アンケート、市民ワークショップでの意見等を参考にして、基本構想を策定した。																									
平成29年 4月～ 7月	●宇土市庁舎建設基本計画及び基本・実施設計者選定支援業務に関する公募型プロポーザルの実施 基本計画策定及び設計者選定支援業務を委託するにあたり、基本構想を踏まえ、本市の特性等を十分に理解し、最も適切な事業者を選定することを目的として公募型プロポーザルを実施した。																									
平成29年 8月～ 11月	●宇土市新庁舎建設基本計画策定部会の設置 市役所の各部の代表者で構成される基本計画策定部会を設置。基本計画について議論を行った。（全4回）																									
平成29年 12月～	●市議会新庁舎建設に関する特別委員会の設置 5.新庁舎建設の審査・検討を目的とした市議会特別委員会が設置された。																									

## 2、市庁舎建設について

### ① 新庁舎建設の状況について

#### 【基本計画時の建設単価】

##### 基本計画時

工事項目		事業費 (税込)	備考
A	建設工事 (新庁舎)	37.6 億円※1	
B	その他建設工事	2.3 億円	外構工事 (仮設庁舎エリア, 旧市民広場エリア), 市役所別棟解体工事, 既存杭撤去工事等
C	調査関連	0.1 億円	地質調査, 敷地測量等
D	付帯工事	2.4 億円	什器・備品購入費, 移転費, 什器廃棄費用, ICT 関連工事, 特定機器工事
E	設計費等	2.2 億円	基本設計料, 実施設計料, 監理料等
合計		44.6 億円	

※1. 基本設計完了時(令和元年6月)において概算費を算定した結果、建設工事費(新庁舎)は、40.7億円(計画時から+3.1億円)となっている。現在実施設計で精査中。

85%

## 6 視察内容

### ② 規模・職員数について

延べ床面積の算定方法については、新庁舎建設基本計画策定時に(1)総務省地方債庁舎起債基準による算定、(2)国土交通省新営庁舎基準による算定、(3)他自治体における庁舎建設事例の3つの方法を比較検討し、庁舎の規模を算定。

### ③ 窓口・レイアウトについて

わかりやすく柔軟性の高い「ワンフロア窓口」の庁舎。来庁者の主動線となる「うと小路」を中心に窓口や待合スペース、市民交流スペースを配置したわかりやすい施設構成とし、市民窓口を1階のワンフロアに集約し、市民の利便性を最優先した計画。

### ④ 職員駐車場について

旧庁舎にも整備されており、全職員分(非常勤も含む)を確保する計画としている。

### ⑤ 基本設計・実施設計について

発注方法は設計施工分離発注方式で、選定方式はプロポーザル方式で行われる。受託業者は「久米・桜樹会設計共同体」。設計委託額は基本設計 3,640 万円(税別)、実施設計 7,460 万円(税別)となっている。

6 視察内容	<p>⑥ C M(Construction Management)</p> <p>熊本地震で被災し、復旧工事が増加する中、建設系技術職員が恒常的に不足しており、また新庁舎の建設は、職員にとっては誰も経験したことのない業務である為、知識とマンパワーが絶対的に不足している状況であった。その様な中、様々な事例を経験している CM(事業者の民間ノウハウ)を活用することで事業が円滑に進むことが期待される為、導入に至った。導入効果について積算はしていない。ただし、マンパワー不足の補完のほか、VE、CD によりコストを適正に管理していくことで総事業費の増大を防ぐことも導入の1つも目的としている。</p> <p>⑦ 建設計画地について</p> <p>建設計画にあたっての事前地質調査は行っていない。ただし熊本地震前に施設周辺を調査しており、その結果と設計者のプロポーザルを行う前に市で一カ所行った地質調査結果との大差が無かったので影響はないと判断している。</p> <p>また、建設地の選定については、平成 27 年度に外部の有識者を含めた検討委員会にて検討を行い、その際に建設候補地を4カ所まで絞り込んだが、最終的には「市民の意見も交えながら再度建設候補地を広げるなど検討を行う様に」との答申が出された。その後、再度建設候補地の検討を行おうとしていた矢先、熊本地震により庁舎が損壊したので、一般単独災害復旧事業債の現地建替要件を鑑み、市役所内部及び市議会新庁舎建設に関する特別委員会で検討した結果、旧庁舎エリアへの建設を決定した。</p> <p>更に断層状況については、地中の事なのであくまでも予測になるが、建設地から約 400m 離れた場所に布田川断層帯宇土区間が通っている。</p> <p><b>【外部の検討委員会メンバー7 名】</b>大学講師(建築学科)・嘱託会連合会会長・市議会議員・商工会会長・消防団長・市民会館館長・P T A 連合会副会長</p> <p>⑧ 市民・議会</p> <p>庁舎建設に関する市民・市議会への説明時期については、平成 28 年度に住民アンケート調査と市民ワークショップを開催し、市民の意見を取り入れながら計画を進めてきた。また、新庁舎の基本構想と基本計画を策定した際に、パブリックコメントを行い、意見の聴取を行っている。また、住民説明会という形では、基本設計の途中段階で基本設計(案)として説明を行い、ここでも出された意見についても可能な限り、基本設計に反映させる様に努めた。議会に対しては、必要に応じて市議会全員協議会及び市議会新庁舎建設に関する特別委員会で説明を行っている。</p> <p>⑨ その他</p> <p>最も苦労した点としては、今後庁内の調整が大変になってくると思う。宇土市企画課では少ない人数で庁舎建設に関する業務を行っている為、付帯工事に関することや庁舎の管理に関する事などは、それぞれの担当課で進めてもらう様に考えている。また、進捗管理の問題や複数の部署に関わる事など調整が必要になってきている。</p>
--------	--

7委員会所見	<p>この度、大村市が進めている新庁舎建設計画にあたり、大村市議会において市庁舎整備調査特別委員会を設置し、その第一回目の視察先に H28 年の熊本地震によって被災し、市庁舎の一部倒壊に至った宇土市役所を訪問した。</p> <p>冒頭、宇土市議会の柴田正樹議長より被災時の状況や、その後の大村市をはじめ他自治体から受けた支援に感謝の念を語られており、発災より約 3 年の月日が経とうとしている中、受けた恩を忘れる事なく、「受けた恩は自分達が頑張って復興する事でお返しするのだ」と話されており、宇土市役所と宇土市議会の皆様の真摯な姿勢と被災によって一度は打ち拉がれた状況に屈せず、何とか立て直そうとされる取り組みに感銘を受けた。</p> <p>当委員会としては、被災した後の建設計画や防災面を考慮した市役所整備の方針、市役所の役場機能としてどのような内容を盛り込み、検討しなければならないのかなどを質問し、返答を頂いた。</p> <p>特に大村市における庁舎建設の課題として建設予定地の地質の状況から、宇土市役所における建替場所設置についてどのような議論があったのかを尋ね、建替費用に必要な事業債を適用させるために同一の場所で建設を余儀なくされたとの説明があった。</p> <p>大村市議会として、今後 12 月末に予定している建設予定地の地質調査の結果を以て、建設予定地のあり方、更には建設費用がいくらになるのか。これらの事に特に注視しながら、今後の市の方針を見定めて行く必要があると考えられる。</p>
--------	--